

2026年

生と死を考える会全国協議会全国大会

2026年6月27日(土)・28日(日)

テーマ：心の痛みを癒すため

現代社会には、病気、孤独、貧困等、多くの苦しみがあります。また、毎年のように地震、大規模火災、記録的豪雨、大雪等、多くの災害にも見舞われます。子どもの自殺は過去最多になりました。そのような社会にあって、多くの人々が心に痛みを抱えて生きています。私たちは何ができるのか、どうあればよいのか、共に考え、学ぶ機会としたいと願っています。

「がんと向き合う ～心の痛みと向き合う～」講師：垣添忠生

「音楽と祈りによる癒しの会 ～東日本大震災後15年目にあたり～」講師：大西貴浩 高木慶子

「癒しの本質 ～いかにして痛みを癒すのか～」講師：高木慶子

..... 講師プロフィール



垣添忠生

1941年4月10日生まれ、大阪出身。1967年東京大学医学部医学科卒業。同年東京大学医学部附属病院で研修し、都立豊島病院、医療法人藤間病院外科に勤務後、1972年東京大学医学部泌尿器科文部教官助手。この頃から膀胱がんの基礎研究に携わり、大学の勤務終了後、夜、国立がんセンター研究所に通って研究を続ける。1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務し、1987年同病院手術部長、第一病棟部長、副院長を経て、1992年1月に病院長、同年7月に中央病院長、2002年4月総長に就任。2007年4月国立がんセンターを退職し、同名誉総長、財団法人日本対がん協会会長に就任。専門は泌尿器科学だが、発がん全般、特に膀胱発がん、前立腺発がんについては今も強い関心をもっている。立場上、がんの診断、治療、予防に幅広く関わり、全がんに目配りしてきた。がん予防、がん検診、緩和医療に対する関心も強い。国立がんセンター田宮賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞を受賞、並びに瑞宝重光章などを受章、2019年12月より日本学士院会員、2025年11月

文化功労者。主な著書：発がんからみた膀胱がんの臨床(メディカル・ビュー社)、がんと人間(共著 岩波新書)、患者さんと家族のためのがんの最新医療(岩波書店)、前立腺がんで死なないために(読売新聞社)、妻を看取る日(新潮社)、悲しみの中にいるあなたへの処方箋(新潮社)、がんと人生(中央公論新社)、巡礼日記 亡き妻と歩いた 600キロ(中央公論新社)、「カキゾエ黄門」漫遊記(朝日新聞出版)、「Dr.カキゾエ歩く処方箋」(朝日新聞出版)など。



大西貴浩

能登教区真宗大谷派高淵山正覚寺衆徒。上智大学グリーンケア研究所認定臨床傾聴士。香川県まんのう町観光大使。上智大学文学部社会学科卒業。日本オペラ協会オペラ歌手育成部第31期修了。2014年、オペラ「春琴抄」久助役にて新国立劇場ソリストデビュー。ハワイ、ミャンマー、台湾で日本歌曲コンサートを行う。伊勢神宮内宮、出雲大社、伏見稲荷大社、春日大社、下鴨神社、熊野本宮大社、高千穂神社、など全国数十社で日本の歌の奉納演奏を行う。童謡・唱歌から芸術歌唱曲まで幅広く日本歌曲を専門とし、日本全国でコンサート活動を行っている。音楽の教科書から消えつつある古き良き日本のうたを次世代に歌い継いでいくことを演奏家としてのひとつの使命とし、精力的に活動している。大分在住、スパイスカレー202店主。



高木慶子

熊本県生まれ。聖心女子大学文学部心理学科卒業。上智大学神学部修士課程修了。博士(宗教文化)。現在、援助修道会会員、上智大学グリーンケア研究所名誉所長。「生と死を考える会全国協議会」会長。「兵庫・生と死を考える会」会長。一般社団法人グリーンケアパートナー理事。「日本スピリチュアルケア学会」元理事長。「全人力を磨く研究所」理事長。「メンタルケア協会」会長。三十数年来、ターミナル(終末期)にある人々のスピリチュアルケア、及び悲嘆にある人々のグリーンケアに携わる一方、学校教育現場で使用できる「生と死の教育」カリキュラムビデオを制作。幅広い分野で全国的にテレビや講演会で活躍中。著書として、『グリーンケア・スピリチュアルケアに携わる人達へ』(クリエイツかもがわ)、『喪失体験と悲嘆－阪神淡路大震災で子供と死別した34人の母親の言葉』(医学書院)、『大切な人をなくすということ』(PHP出版)、『悲しみの乗り越え方』(角川書店)、など多数。